

2025年大阪・関西万博推進本部

《第12回議事録》

■日時：令和6年12月2日（月曜日）11時30分～12時30分

■場所：大阪府庁新別館南館8階 大研修室

■出席者：出席者名簿のとおり

○第1部

（彌園万博推進局長）

お疲れ様でございます。万博推進局長の彌園でございます。

それではただいまより、2025年大阪・関西万博推進本部会議を開催させていただきます。

本日の会議でございますけれども、まず第1部の会場建設費の執行状況についてという部分からはじめたいと思いますけれども、大阪府・市の出席者につきましてはですね、リモートの方を含めまして、配席図でありますとか出席者名簿に記載させていただく中で、本日はですね、2025年日本国際博覧会協会の小野副事務総長にご出席いただいておりますので、ご紹介をさせていただきます。

それでは早速でございますけれども、会場建設費の執行状況についてということで、小野副事務総長、資料のご説明をよろしくお願い申し上げます。

（小野副事務総長）

協会の小野でございます。大阪府・市には平素から協会の運営につきまして、平素から各種ご支援・ご協力を賜りまして、改めて御礼申し上げます。

また、知事・市長におかれては、先週、フランスのBIE総会にお出ましいただいて、PRしていただいて、大変助かります。本当にありがとうございます。

早速ですけれども、本日の議題でございます、会場建設費についてご説明させていただきたいと思っております。

私どもの資料の2ページ目でございます。

ここでは、会場建設費の全体像をお示ししております。ここでございますように、昨年10月に増額をお認めいただきまして、2,350億という全体予算をいただいております。そのうち、工事費として2,220億、予備費として130億ということで整理をいただいているということでございます。

今回、11月時点ということですが、執行状況をご説明いたしますと、この資料で真ん中の①をご覧いただきたいと思いますと思いますが、昨年10月の当時、予見できなかった事象への対応が必要になってきてまいりまして、それが87億円出てきたということでございます。2つ項目でございます。後ほどご説明いたします。

それから、②でございますけれども、執行がだいぶ進んでまいりました。建設費用の契約ベースですと、9割近くもう執行が進んできております。これまでの間は、昨年かなり物価が高い段

階で増額をさせていただきましたので、その見込みが足元だいぶそれよりも小さい数字になってきております。それから、当然、執行にあたって、個別にコスト削減の努力をしてきておりますので、そうした減の要素といったようなものがございます。

こうしたもの諸々ある一方で、1番下のぽつにありますけれども、現地を再精査して工事を進捗するにしたがってどうしても必要になってくるものというものがプラスの91億円ぐらいかかってきているということですが、差引で現時点の数字ではございますけれども、約25億円、いわゆる2,220億という予算の枠の中では隙間といいますか、節減できている状況でございます。

したがって、新しい需要87億円ということで、これは本来2,220億という数字では想定していなかったものなので、予備費で対応をお願いすべきところでございますけれども、現時点では約25億円、2,220億円の方が節減できそうだという状況でございますので、現時点で予備費130億のうち約62億円程度が見込まれるということでございます。

次に3ページ目をご覧ください。3ページ目はただいまご覧いただいた資料の87億円のご説明でございます。

大きく2つの柱がございまして、このページでは1つ目の柱、公式参加国出展形態変更への対応ということで、約57億円見込んでおります。そのうち、1といたしまして、タイプX9棟の有効活用ということでございます。

タイプXにつきましては、今年のはじめでございますけれども、まだ各国なかなか建設事業開始の見込みが立たない国が多いという状況の中で、最大限、用意しておこうということで、9棟タイプXを準備いたしました。

そのうち、結果として、5か国タイプXに入居するということが決まりましたけれども、4棟余ることになりましたので、これらについては、理事会にもお諮りしたうえで有効活用をしようということで、協会の方で整備費等々を負担するということになってございます。

この4棟分の費用、これが約32億円ということでこの金額は私どもの理事会で承認をいただいている数字でございます。

それから、参加国の出展形態の変更、具体的に言いますと例えばタイプAで予定していた国がタイプCに移るといったような国がございまして、そのための区画・土地が空いてきている部分がございます。この空き地について、これを裸にしておくわけにはいきませんので、最低限、人工芝を敷いて、露天で暑い時期が多いということもございまして、休憩所等に使えるよう、少なくともテントを張る等、あるいは冷風設備を設置するといったようなことが必要になってくるということでございます。

それから空き地の他に、空区画というものも出てきてございまして、これはタイプBと呼ばれるものでございまして、こちらも出展取りやめをする国がございまして、当初予定していた区画のうち、空いている区画が出てきております。ここについては、建物自体は立っておりますので、内装をしたうえで有効活用していこうということでございます。

この空区画につきましては、表にもございますようにロボットや空飛ぶクルマといった未来技術の体験エリア、あるいは会場内で今回の紙チケットを導入いたしまして、スマホ操作が不慣れな方でも会場に来ていただける選択肢を入れておりますけれども、そういう方々が事前にパビリ

オンやイベントの当日予約ができてない方が多いと思われるので、そういうことができるようにするためのエリア、あるいはミヤクミヤクを展示して写真撮影をしていただく、それから暑熱対策ということで会場スタッフ用の休憩エリア等にも使わせていただきたいと思います。今回、精査の結果、約25億円を見込むものでございます。この件につきましても、理事会でお諮りしております。ただ、そのときには金額が約20億円から30億円ということで幅のある数字でお示しをしておりましたけれども、今回精査した結果、25億円ということでございます。

次のページご覧いただければと思います。当初予見できなかった87億の2番目の柱がメタンガス対策でございます。

こちらはご案内のように、本年3月に会場内のグリーンワールド工区で爆発事故が発生しております。これを受けまして、メタンガス対策ということで私ども9月の理事会で安全対策というものを示しております、そのうちのハードの部分でございます。

ハードにつきましては、基本的にこういうものやっぺいこうということで、資料にございますけれども、①から機械換気、それから検知器、それから侵入抑制、それからマンホールの穴開け、それから透水性舗装、こういったようなことを基本として、それぞれの施設の特性に応じた対策を実施していこうというふうに考えております。

グリーンワールド地区については、全てのいわゆる屋根のある建物については、こうしたハード対策をフルスペックで行っていくということを基本にしようと考えております。

それから、パビリオンワールドの部分については、基本的にメタンは検出されていないんですけれども、一部グリーンワールドに隣接した区域と、それからパビリオンワールドの東側、おそらく地下鉄工事を行った上の部分ですので、私どものところで申しますと、大催事場EXPOホールの近辺あたりで一定濃度ではございますけれども、ガスが検知されております。こうした部分につきましても、専門家のご意見を伺いながら、対策を実施するというので、ここの部分についてはハードについては基本的には先ほどご紹介したもののうち、侵入抑制、マンホール穴開け、透水性舗装といったようなことを中心に実施いたしまして、あとは、これはグリーンワールドとパビリオンワールド共通ですけれども、ソフト面の対策として、会期中もガス濃度測定を継続的に実施して、協会のホームページで、それを毎日お知らせするといったようなことを考えております。

いずれにせよ、今後とも専門家のご指導をいただきまして、各施設管理者、事業実施者が行うべき安全対策、これを求めまして、確実な実施を確保して、安全・安心といえる万博会場を目指してまいりたいと思います。

次に5ページ目でございます。ここからは、2,220億の中のプラスマイナスの世界でございます、ひとつは物価上昇の関係でございます。

前回、昨年10月には、資材費・労務費が非常に上がっているということでございましたけれども、足元の上昇幅を見ますと、昨年の状況に比べると緩やかになっておりますので、前回の試算を補正したものでございます。前回は、資材費について、1年13.4%、労務費について、1年4.8%ということをおお前提に、会期が終了して撤去するまでの期間、その上昇率が続くということをおお前提にいたしまして、増額分を527億円というご説明をさせていただきました。他方で、過去1年間

の物価の推移を見ますと、資材費は上昇幅が緩やかになっております。資料の真ん中のところの右側のグラフにつけておりますけれども、土木と建築で数字が違いますけれども、土木でこの1年間約5%を、建築で約4%ということで、全体で見ますと資材費は年間4.5%程度の上昇に収まることになっております。

それから、労務費でございます。労務費が逆に若干高騰しております、右下をご覧くださいますと、昨年公表されました公共事業の設計労務単価ですけれども、今年度の数字は5.9%ということで、上昇しているということでございます。昨年のやり方ですと、21年から累計で16%伸びておりますので、これを年数で割るという数字にするんですけれども、足元伸びているということもありますので、今回は安全を見て足元5.9という高い数字を使って積算をやり直させていただいております。

その結果、この資材費・労務費による上昇額というものが462億円ということで、昨年積算しました527億との差額65億円というものがいわば財源として出てくるというふうに見ているということでございます。

次のページをご覧くださいますと、これがプラスマイナスの全体像でございます。左側ご覧くださいますと、この物価上昇、今ご説明した65億の他に、入札減、基本的に予定価格内で落札しておりますので、入札減の累計っていうものが現時点で14.6億円あるということでございます。それから、発注等の見直し、あるいは協賛獲得といったようなことで、24.7億円、それから施工するにあたっての様々なコスト削減、仕様を見直すことによるコスト削減等々が11.8億円といったようなことでございまして、累計で116億円縮減が図られるのではないかと見ております。

それに対しまして、右側はこれがプラスの部分でございまして、現地を再精査したこと、あるいは公式参加国の準備進捗に伴う変更が合わせて91億円あるということでございまして、これを差引いたしまして、現時点でございまして、25億円の隙間があるということでございます。

なお、この表の左側コスト縮減の部分は既にもう実績としてこれだけのコスト縮減を行ったというものでございまして、今後の縮減については見込んでおりません。他方で、右側の91億円は、現時点で見込める将来のプラスアルファの部分そういったものを含んでおります。例えば、これからおそらく年が明けますと、海外のパビリオンの建設が全体として遅れておりますので、おそらく24時間毎日体制ということになるかと思えます。それ自体は、各国が施工をするわけですけれども、私ども全体の管理として会場へのゲートを管理したりですとか、警備をしたりですとか、そういったものを24時間体制にしていく必要があるといったようなことがありまして、そのための費用が数億円、余計に必要なっていくといったようなことも、例えば、この91億円の中に含めて今考えておりますということでございます。

次のページをご覧くださいますと、さらに予備費についての考え方ということをもとめているものでございます。

ご案内のように、昨年2,220億という建設費に、概ねこういう工事については大体6%ぐらいの予備費を設けておくということで、130億円ということを計上させていただいております。その時点から現在に至るまでですけれども、先ほど申し上げましたように、会場建設費の契約率は9割に近くなっております。出来高ベースで見ましても7割を超えてございまして、工事自体のピーク

アウトしているという状況でございます。130 億円計上していた頃から1年間経過しているというところでございますので、建設事業の不確定要素は、一定程度低減しているというふうに考えられるというふうに思っております。したがって、今後、今回の62億円の予備費を使いますと、残りは68億円ということになるわけですが、これにつきましては、専門家の意見を聞きまして、必要十分であろうという回答を得ておりますので、最終的に2,350億円という枠はしっかり守れるというふうに現時点では考えております。

最後に8ページ目をご覧くださいと、先ほど申し上げましたように、現在の執行状況ということで、これは10月末時点の数字になります。契約済額をご覧くださいと、執行率1番下のところですが、契約率が87.9ということで9割近い数字になってるということでございまして、残り306億ということになっております。この306億のうち、約6割、180億円程度が会期前までに執行を予定しております。残りの4割につきましては、基本的には、会期後に基盤のインフラを撤去する費用、これが主となっております、これはおそらく会期がはじまってから契約をするということになろうかと思っております。会期中に必要となってくるこの約180億のうちには、先ほどご説明した今回予備費の説明をさせていただいております、海外パビリオン関係、メタンガス関係といったようなものが大きな割合を占めてきているということでございます。

最後になりますけれども、あくまでも現時点の状況ということでご説明をさせていただきました。コスト削減ということにつきましては、引き続き取り組んでいくべきものと当然考えておりますし、現時点、日々そういうことに努めております。他方、安全・安心な会場整備という観点も重要でございますので、ぜひこのような形で執行をお認めいただきたいというふうに考えてございます。

以上でございます。ありがとうございました。

(彌園万博推進局長)

小野副事務総長、ありがとうございました。

それでは、ただいまの内容につきまして、ご質問・ご意見等があればですね、お願いしたいと思っております。

(高橋副市長)

私からは会場建設費の執行管理につきまして、お伺いしたいと思います。

今日の説明でしたので、タイプXの対応、あるいはメタンガス対策に87億円が増額し、また、会場建設費の執行額の精査で25億円の隙間ができたので、結果として、予備費から62億円を追加することであるんですけども、また今日の説明でもあと隙間68億についても検証の資料のご説明もあったんですけども、改めてこのきちっと2,350億円の範囲に収めるために、具体的にはどのように執行を管理していくのか改めてお聞きしたいんですけども。

(小野副事務総長)

ありがとうございます。

執行管理という意味では当然 2,350 の天井っていうのがありますので、それを超過しないようにするということが大前提でございます。

他方で、工事費自体は 2,220 億ということでお認めいただいた経緯がございますので、今回のご説明を了承していただければ、それにプラスして予備費 62 億円ということを使わせていただきたいということですので、当面は 2,220 億にこの 62 億円を足した 2,282 億円っていうのがひとつの目安として管理を行っていくということになろうかと思えます。

ただ、もちろんこの今回ご説明した数字につきましても、これから入札にかけていくようなものについては、当然、入札減あるいはコスト縮減等の取組を行ってまいりますので、少しでもこの金額を減らす努力は引き続き、続けていくということを改めて申し上げたいと思えます。

(高橋副市長)

2,282 億円でも執行管理しっかりしていると思うんですけど、私としましては、今、質問ありました資料 8 ページのですね、この会場建設費の執行状況の資料の中で、今後の予定で未契約のところの 306 億円というのは、説明がなされて、開催までには約 6 割を、また、その後に 4 割の執行を予定していると説明があったんですけども、私はこの 306 億円をしっかり管理していくことが肝かなと思うんですけども、その際メタンガス対策なんかも先ほど説明では 30 億ということが説明されたんですけども、例えばここでこの表を見ると、メタン対策で大工区とか主要施設とか、あるいはインフラ施設・設備、交通施設といったところが非常にバラバラとして契約として出てきます。先ほどのご説明によると、30 億でってことで一括して契約されるのかなというふうなイメージを持ったんですけども、契約がバラバラになっていますので、事故を踏まえた専門的な対策っていうのはどういったバラした契約で確保できるのかどうか、そこだけ確認させてもらいたいんですけども。

(小野副事務総長)

ハードの対策はですね、多くの部分は工区ゼネコンに工事をお願いしている部分でございますので、基本的には大林、清水、それから竹中というそのそれぞれの工区に応じて工事が必要な部分について契約変更という形をお願いをしております。したがって、かなりの部分はそこでまとめて契約をしていただけるものと考えております。

副市長おっしゃったように、実はグリーンワールドには民間が出展する部分もありまして、民間が建てる建物がございます。これは元々向こうの資金で建てるものなのですが、今回、強制換気設備を入れるようなことになると、これは協会側の責任ということで、そのプラスアルファの部分は協会の方で持ってあげなきゃいけないという部分で、そういう部分でいくつか個別にやっっていかなきゃいけないという部分が全体としての割合は多くはありませんけれども、ございます。そうしたのも全部合わせたうえで、30 億という数字を示させていただいております。

全体として、これをはみ出ることのないようにしっかりと執行はしていきたいと思っております。

(高橋副市長)

着実に総合的な対策実施よろしくお願ひいたします。

それからもう一点、今日この追加された 87 億以外にですね、資料でいいますと 6 ページのところで、新たに 91 億円が増えますという説明がありました。ご説明もありましたけれども、この表の資料のグラフ左側の物価上昇緩和の 65 億ほどのところはもう既に実績済の数字ってことでございました。また、右側については、将来のプラスアルファも含めた数字ということでお聞きはしてるんですけども、一応ここで隙間は 25 億円というのを確定させてるんで、この 91 億円というのは、しっかりと達成してもらいたいと思ってるんですけども、ちなみにこの 91 億円のうち、未契約の部分がいくらぐらいあるんでしょうか。

(小野副事務総長)

未契約の部分は 40 億円程度でございます。

(高橋副市長)

先ほど資料の 8 ページでいいますと、先ほど 306 億の中に未契約の部分が 40 億ということで、しっかりこの中で収まるようにお願ひしたいと思っております。

最後に確認させてもらいたいのが、やはり未契約を含む 306 億の管理していくのが大切ななと思ってるんですけども、協会の中では契約の担当は整備局の方が主にやられており、C F Oとしてこの 306 億をどのように執行管理されているのか、改めてお伺ひしたいんですけども。

(小野副事務総長)

ありがとうございます。まず、この 91 億は、これはしっかり見込んだ数字でありまして、これを超すことのないように当然予見できない事項が出てくるわけですけども、しっかり管理していきたいと思ひます。

それから、会場建設費、当然、発注者は私どもの中では整備局でございますけれども、当然、財務部、それから調達部という私どもの総務部系統の部門がありまして、そこで一本一本、契約の中身についてはチェックさせていただいております。私自身も契約につきまして、建設費につきましては、ほぼ全契約、運営費は細かいものがあるので全ては見てませんけれども、建設につきましてはほぼ全契約、中身は見させていただいたうえで、補助金をいただく必要がありますので、大阪府・市と国へ協議させていただいてると思ひますけれども、しっかり責任を持って見させていただいておりますし、今後とも 2,350 億というものを常に意識しながら、しっかりと執行管理していきたいと思っております。

(高橋副市長)

ありがとうございます。C F Oとしてしっかり執行管理よろしくお願ひいたします。

また、万博推進局の方の事務方においても、未契約の内容といつ執行するかどうかをしっかりと確認よろしくお願ひいたします。

(彌園万博推進局長)

承知しました。これまでからもそうなんですけれども、協会とは執行協議という中で色々意見交換させていただいてるので、引き続きその中でしっかりと執行管理をしていきたいというふうに思います。

他に何かご質問ございますでしょうか。山口副知事、お願いします。

(山口副知事)

すみません、細かいことは基本的には万博局で色々確認をさせてもらうと思うんですが、ざっと形態変更で 57 億とかメタンガスで 30 億がいるというのは、中身として、事業としているんだろうなというのはわかるんですが、この 91 億のそれぞれ項目書かれてるんですけども、何となくイメージはできるものはあるんですけども、例えば、公式参加国の工事進捗等に伴う変更で 30 億円ぐらいが積まれてるっていうのは、一体どういうようなことが契約っていうか、変更が行われているっていうか、それぞれに細かい点は聞かせていただくにしても、ざっとわかる範囲です、教えていただけたらありがたいなと。

(小野副事務総長)

ありがとうございます。個別の積算はありますので、別途、事務的にきちんとお示ししますが、わかりやすい例で言いますと、電力をですね、増強してくれっていう要望が非常に多くの国から来ております。我々、想定して一定程度の電圧・電力を供給できるような形で設備を整えてるんですけども、どうしても特殊な催し物をしたいというような国が非常に多くなっておりまして、そういったことで、公式参加国の要望なので応えざるを得ないと、もちろん交渉しながらですけども、そういったご要望に答えているという部分でして、わかりやすいものといえば、そういうものがございますし、実際に工事してみると地盤面がこの普通の園路からずれてるとかですね、その辺は補正してくれみたいな、本来は敷地の中の工事は各国の責任・費用っていうことなんですけれども、会場全体整備の責任者として対応しなきゃいけないというのが個別個別の国との関係で出てきているものがある、例えば、そういうものでございます。

(山口副知事)

ありがとうございます。先ほど高橋副市長からもありましたけど、まだ執行がされてないものもあると思うので、そこはよく精査をしていただいて、必要なものはもちろん対応せなあかんと思うんですけども、精査をよろしくお願ひしたいと思います。

もうひとつはですね、一応残りの予備費でいろんなことが想定されることが賄えるだろうという専門家の意見を出していただいて、やれるということですけども、正直 2,350 からですね、増えることはないのか、例えば、こういうことはあつてはいかんでしょけれども、集中豪雨が起ってどっかが破損するであつたり、あるいは地震が起ってそういうときにどっか破損したときどうするかとか、そういう予期せぬことがですね、起こりうるということだと思っ

れども、起こる可能性があると思うんです。そういう場合に備えて協会の方でどういう対応されてるか全て予備費ですね、残りの予備費で対応できるっていうふうには何となく思われへんかったりするんですけども、その点どうお考えでしょうか。

(小野副事務総長)

ありがとうございます。まず、普通の風水害については、火災保険に入っておりますので、それで対応できる部分には対応できるということだというふうに考えております。

地震につきましては、耐震構造は一応仮設建築物とはいえ、耐震はきちんとしたものをつくっておりますので、大きく破損するということは考えておりません。

南海トラフ級のものが来たときのようなことは別途考えなきゃいけないと思いますけれども、通常想定されてるようなものであれば、まず、保険での対応もできるということでありまして、それでもし足りなければ、予備費の残額ということでございます。

去年の10月の時点では、建設の執行残額は当時まだ750億ぐらい残ってたという状況ですけども、先ほどご説明しましたように、現在残り300億まで来ておりますので、予備費が大体半分ぐらいなっても、おそらく予備費の計上水準としては、そんなに足りないというようなことではないということ、私どもが契約しているコンサルなり、あるいは過去の万博の経験をされている顧問の方の複数の意見を聞いたうえで、このぐらい残っていれば大丈夫だろうというご意見をいただいております。

(山口副知事)

ありがとうございます。そういう保険も入ってるとかいろんな措置をやっているということも含めて専門家の意見を聞いていただいて、チェックをしていただいているということはわかりましたので、基本そういうことがないと1番ですけども、そういうふうに頭の中に入れてやっていただきたいというふうに思います。

(彌園万博推進局長)

ありがとうございます。他に何かご質問等ございましたらお願いしたいと思いますけれどもいかがですか。森岡副知事、よろしく申し上げます。

(森岡副知事)

先ほどのご説明で、未契約が、特に会期中ぐらいに契約されると聞いてました会場の基盤撤去工事ですね、これがおそらく一番最後の方の工事になると思うんですけども、これが改めてどれぐらいの規模なのか、それと、それは今のところ物価上昇という点では、どういうふうに想定されているのか、そのあたり教えていただけますでしょうか。

(小野副事務総長)

ありがとうございます。まず、基盤撤去ですので、建物の撤去までは、既にもう契約してるん

ですけれども、その建物を撤去した後のまさに舗装とか水道とか電気とかその手の基盤撤去という事です、これが先ほど申し上げましたように、会期後に契約する金額が 120 億円ぐらいです、そのぐらいかかってくるだろうというふうに考えております。

ただ、これ自体、おそらく大阪市の跡地利用との関係もあるかと思えます。電気、ガス、水道を全部一旦撤去するということが合理的なのかどうか、一部大阪のパビリオンは残ると聞いておりますし、そういうようなことがあれば、電気・水道は一定程度必要になってくると思えますので、そこは具体的に大阪市の跡地をどうするかというのを踏まえたうえで、よく中身を精査したうえで、決めていきたいと思えますし、もし、一部を残されるということになれば、それはおそらく、この事業費は減の方向に働くということになると思えますので、そういったことも踏まえて、そこはしっかり対応していきたいと思っております。

(森岡副知事)

それに対する物価上昇というのは5ページの説明の通りということでしょうか。

(小野副事務総長)

物価上昇はですね、まさにこの撤去工事が完了するまでの期間、この数字で、資材費 4.5%、労務費 5.9%で上昇が続くという前提で計上してございます。

(高橋副市長)

最大で撤去費用を組んでいただいて、あとは市の跡地利用の事業者の顔を見ながら、場合によっては少し減っていきましょと、そういったご説明でよろしいでしょうか。

(小野副事務総長)

一応積算をですね、もう全て撤去するということですので、撤去しない部分が残るということであれば、通常考えれば、その分の費用が減ることになる可能性が高いんじゃないかという、これはまさに大阪市の跡地利用の形がどうなるかというのを踏まえることになると思えます。

(彌園万博推進局長)

ありがとうございます。どうぞ。

(山口副知事)

これは万博推進局の方にちょっとだけ、とりあえず協会が試算されてるこの物価上昇の緩和では、資材費は 13.4 から 4.5、労務費が 4.8 から 5.9、これは値上がりしてるんですけども、詳細はまたチェックするかも分かりませんが、この間も色々ウォッチをしてるんじゃないかと思うんですが、この数字っていうのはどうなんですか。

(高橋万博推進局理事)

前回の会場建設費が2,350億円上がるってなったときの議論でもございましたように、今協会の方からお示しいただいた物価上昇の率の数値ですね、値の方は妥当かどうかというところについては、大阪府・市の公共事業の事例と比較して確認してまいりたいと思っておりますが、最近のですね、大阪府・市の工事発注の状況聞いてみますとですね、傾向としましては、資材費の方はやはり昨年度よりは緩和の傾向になっている、上がってはいるけれども緩和の傾向になっているということと、労務費の方もですね、昨年度より上昇傾向ということで傾向としては同じような傾向があるというふうに聞いております。

(山口副知事)

引続きまた、チェックよろしく申し上げます。

(彌園万博推進局長)

他、ご質問がなければ知事・市長におまとめいただければなと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

そしたら本部長であります知事、おまとめの方よろしく申し上げます。

(知事)

本日、小野副事務総長に会場の建設費の執行状況、それから予備費の具体的な一部の執行について説明をいただきました。

予備費については昨年ですね、会場建設費の増額のとときに、計上したのでありまして、予備費を執行する場合には、あらかじめ、このオープンの中で事前に大阪府・市とも協議をして、了承したうえでやってもらいたいと、こういうことを申し上げて、まさに本日、また、事務手続きとしてもこれからもですね、そこをしっかりとお願いをしたいというふうに思います。

中身なんですけれども、まず、メタンガス対応についてはですね、私からも協会の理事会で申し上げました、一定の対策をとるということでしたけれども、私からもさらに、ここは非常に重要なところでもあるので、安全・安心のために徹底してもらいたいということを理事会の場でも申し上げました。また、副事務総長にもですね、直接にもお願いをしたところでもあります。ですので、ここについては、安全には安全をとという対策をとっていただいたというふうに認識をしておりますので、これは予備費の執行として、僕は適正なのだろうと。むしろ、こちらからしっかりやってもらいたいとお願いをしたものでもあるというふうに僕は認識をしております。

それからもうひとつはですね、タイプX、ここはやはりそれぞれの出展の国の条件も大きく変わってくる中で、ここも理事会の場で申し上げましたけども、子どもたちですね、校外学習であったり、全国からの修学旅行ということで、多くの未来社会の実験場を子どもたちが見に来ると、そして、そこで新たな発見に繋げていくという非常に教育的な意義がある事業をですね、全国で、また、大阪府・市もやる中で、現場の先生方から休憩所をちゃんととってほしいという強い意見がありました。

ですので、やはりタイプXの変更のところについては、しっかり休憩場をメインに活用してほしいという意見を出しましたので、これもまさにその意を受けてやっていただいているというふうに思っていますから、これはまさに、大阪府・市とそれから国と、協会と連携しながら、必要な予備費の執行なんだというふうに私は認識をしています。

ただ、具体的に内容の根拠であったり詳細な確認っていうのは、これは実務的には必要だと思いますので、ここはですね、大阪府・市の事務方とさらに詰めていただきたいと思ひますし、その結果を我々としては、府民・市民の皆さんにきちんと公表していきたいというふうに思っていますので、引き続き、その具体的な内容や根拠の詳細の確認等はよろしくお願ひをいたしたいというふうに思ひます。

また、副事務総長から2,350億円が天井だとしてやっているという強い認識をいただきまして、これはまさに完全に合致をしております。今回の会場建設費は2,350億円に収めるということは、これはもう私も当然そうだし、そして総理が出席する会議で皆に共有してすることでもありますので、きちっとですね、ぜひ副事務総長におかれましては、CFOとして、2,350億円の中で収めながら、適切な万博を執行する、必要があれば予備費を追加執行していくということの全体管理を財務最高責任者としてお願ひしたいと思ひますので、よろしくお願ひをいたします。

(彌園万博推進局長)

続きまして、横山本部長代行よろしくお願ひします。

(市長)

まず、小野副事務総長、ご説明ありがとうございます。

資料もですね、わかりやすく記載していただいております。予備費の執行に際しましては、公式参加国出展形態変更とですね、メタンガス対策、いずれも必要な対応だと思いますので、予備費の執行というのは致し方ないところかと思ひます。

今日ご説明いただきましたが、また引き続き、大阪府・市の事務方とですね、しっかりご調整いただいて、我々も府民の皆さん、市民の皆さんにしっかりわかりやすく伝えていかないといけないと思っております。

また、資料6ページ、7ページ以降ではですね、コスト削減の取組や、現地の再精査でコスト増になったところもお示しいただいておりますが、差引で25億円減ということで、この左側のコスト削減・削減に関しては、まだ今後の削減幅については見込みはここには含まれていない、要は、まだ削減できる可能性は含まれているという理解でおりますので、引き続きですね、このコスト削減・削減の取組もお願ひしたいと思ひます。

7ページにおきましては、先ほど知事からもありました通り、この会場建設費の専門家の皆さんのご意見もいただきながら、会場建設費は2,350億円の範囲内で対応していくという力強いお言葉をいただきましたので、こちらについても併せてお願ひしたいと思ひます。

また、インフラ等の撤去工事につきましては、逆にコスト減の可能性として大阪市の方で跡地利用に関しての対応次第ではコスト減になれる可能性もあるということですので、この点もまち

づくり 2 期の手続きを進めておりますので、並行して事務方としっかり調整できる範囲でしていきたいと思えます。

引き続き、2,350 億円に収めること、また、予備費の執行に関しては、厳密に取り組んでいくこと、関係者一同、一丸となって取り組んでいきたいと思えますので、よろしくお願ひいたします。

今日はありがとうございました。

(彌園万博推進局長)

横山本部長代行ありがとうございました。

それでは、これをもちまして第 1 部でございます会場建設費の執行状況については終わりたいと思えます。

小野副事務総長はじめ、協会の皆様、どうもありがとうございました。

○第 2 部

(彌園万博推進局長)

万博関連事業の進行状況等についてということで、時間が押しているということもござますので、早速でございますけれども、川端政策企画部長よりご説明をお願いしたいと思えます。

(川端政策企画部長)

大阪府政策企画部長の川端でございます。本日は財政総務部会より、万博関連事業の進行状況等についてご説明をさせていただきます。万博関連事業の進行状況等についての資料の 2 ページをお開きください。本日は大きく 2 点ご報告いたします。

1 点目は、大阪・関西万博の準備等に直接資する事業として、国の考えに沿って整理した大阪・関西万博に要する府市の費用についてのうち、下記の (2) から (8) の項目を万博関連事業として、予算の執行状況並びに事業の進行状況を報告するものです。

また、2 点目ですけれども、本来の行政目的のために実施する事業であり、万博のみに資するものではありませんが、万博後の大阪・関西の成長・発展に資する大阪版万博アクションプランに基づく事業の状況等について、参考情報として報告をいたします。

まず、資料の 3 ページをご覧ください。万博関連事業の予算の執行状況でございます。(2) から (8) の全ての事業におきまして、まず、左側は令和 6 年度当初予算を掲げております。真ん中に執行見込額、さらに右側に差引を入れておりますけれども、全ての事業において予算の範囲内で予定通り執行されていることを確認しております。なお、(8) の環境整備や機運醸成等におきまして、契約の落札減によって、一部執行減が出ております。

4 ページをお開きください。(3) 大阪メトロ中央線等、輸送力増強等についてでございます。

万博 TDM につきましては本番に向け、来場者による万博交通と通勤や物流等の一般交通が集中することから、TDM の実施を企業・府県、市民等に働きかけるとともに、万博 TDM トライアルを実施いたしました。なお、大阪メトロ中央線につきましては、夢洲駅は 2025 年 1 月 19 日に開業予定でございます。

右側（４）大阪ヘルスケアパビリオンの建設等につきましては、建築工事が完了し、現在、展示工事を実施中でございます。

５ページをお開きください。参加促進についてです。ボランティアにつきましては、２万人募集のところ、約５万５千人の方に応募いただき、現在、３万人まで拡充し、登録を進めております。

（６）機運醸成でございますけれども、１年前、半年前、１００日前等の節目を捉えまして、機運醸成を行ったところでございます。なお、先日、知事・市長みずからＢＩＥ総会でＰＲいただく等、機運醸成に取り組んでいただきました。

（８）右側でございます。その他につきましては、会場周辺の交通環境の整備や安全・安心な万博の開催に向けた各種準備が進められているとともに、下の段ですけれども、万博局以外の機運醸成イベント並びに万博期間中の会場内での催事の準備が進められているところでございます。

６ページをお開きください。ここからは、大阪版万博アクションプランに基づく事業の状況でございます。まず、左側、ライフサイエンスでございますが、未来医療の産業化を進める新たな拠点として、中之島クロスが今年６月にオープンいたしました。今後の医療技術の進歩に即応した最先端の医療技術の創出・実証に向けまして、来年、会場外パビリオンとして未来の医療ＥＸＰＯの開催準備が進められております。

右側はモビリティでございますけれども、空飛ぶクルマの複数機体による会場周辺飛行や、自動運転ＥＶバスによる会場内外の移動に向けた準備が進められております。

７ページをお開きください。カーボンニュートラルにつきましては、会場内や府内各地でフィルム型ペロブスカイト太陽電池等のカーボンニュートラル最先端技術・製品の実証・実装の準備が進んでおります。右側は、ＣＯ２排出量の見える化等、事業者・府民の行動変容に繋がる取組も実施中でございます。

１番下の観光・文化、おもてなしにつきましては、万博をきっかけに大阪へ来られる方々に大阪の魅力を発信する様々なイベントや、ユニバーサルデザインタクシーの増加促進等、多様な方々に大阪府を快適に楽しんでいただける取組を進めております。

最後に８ページをご覧ください。大阪版万博アクションプランに基づいて進めてきた取組の成果を、万博後のさらなる成長・発展に繋げるべく、現在、大阪府・市一体の新たな成長戦略として、Beyond Expo 2025 の検討を開始しております。現在、府市合同タスクフォースを設置し、具体的施策を検討中でございますけれども、来年２月に中間報告を予定しております。

以上で財政総務部会からの説明を終わります。ありがとうございました。

（彌園万博推進局長）

ご説明ありがとうございました。それでは、ただいまの内容につきまして、ご質問、ご意見等ございましたらよろしくお願ひしたいと思います。

（山口副知事）

すみません、質問というよりお願いですけど、大阪府・市の財務部長・財政局長がおられるん

で、お願いしたいんですけど、もちろん万博ですね、要る費用っていうのは限られた財源ですけども、しっかり措置をしていただきたいということと、併せて今、Beyond 万博をやってますけれども、もちろんやっぱり継続的な事業とかあるいは万博と合わせて、来年度予算案結構計上せなあかん事業というのがもちろん出てくると思うんで、そこはしっかりと措置をしてほしいとか、見極めてですね、やっていただきたい。もちろん要求側もしっかり要求していかなあかんというふうに思いますけれども、大阪府・市としても、万博のレガシーをしっかりと引き継ぐ事業については、来年度予算からですね、措置をお願いしたいと思いますんで、よろしく願いしたいと思います。

(彌園万博推進局長)

ありがとうございます。金森部長、大丈夫ですか。

(金森財務部長)

了解です。

(彌園万博推進局長)

了解です、ということでございます。

(山口副知事)

大阪市の財政局長もお願いします。

(阿形財政局長)

まだ具体的な事業というのはそれほど出てきてないんじゃないかなというふうに認識しております。一部はそれらしいものが出てきてるんで、Beyond の全体の話の中で具体化されていくんじゃないかなというふうに思ってますけど、スケジュール的にはなかなか予算編成は厳しいかなと思いますけどそれはしっかりと受け止めていきたいと思います。

(山口副知事)

通年のスケジュールでは難しいと思いますけど、予算案は編成自体は1月いっぱいぐらいまで時間あると思うんで、そこは少し万博スペシャルということで、日程もよく考えていただけるとありがたいと思います。よろしくお願いします。

(彌園万博推進局長)

ありがとうございます。他は大丈夫でしょうか。

それでは、知事・市長にですね、最後おまとめいただきたいというふうに思いますけれども、まず、本部長であります吉村知事、お願いいたします。

(知事)

まず、いよいよあと4ヶ月後になりましたから、大阪府・市、国、協力して、この素晴らしい万博を実現していきたいと思っています。多くの皆さんも期待してますし多くの国民が期待しているし、我々、地元の自治体として、この万博って本当に未来社会の実験場として本当に素晴らしいなと思ってもらえるようなものをですね、今も準備してますけれども、最後の準備が佳境に入ってますから、ぜひこれを大阪府・市一体で実現をしてもらいたいと思いますので、よろしくお願ひします。

それからやはり万博ってのは、6ヶ月間の非常に大きな事業であるんですけども、レガシーをですね、しっかり残していくっていうのはすごく大切なことだと思います。このBeyond EXPO 2025で横山市長の号令のもとでこういったものをしっかりつくっていくことも大賛成で、これをぜひ大阪府・市一体で進めていってもらいたいと思います。万博をきっかけに、さらに、大阪の成長・発展をぜひしたいと思いますし、それは、日本の成長・発展にも繋がってくると思いますので、そういった意味での予算であったり、計画であったり、広い意味でですね、幹部の皆さんには広い目で見て、やってもらいたいと思いますので、よろしくお願ひをいたします。

横山市長とパリに出張いたしまして、世界各国の皆さんもすごく期待をされています。また、社会課題を解決していこうじゃないかっていう非常に強い思いを持っていらっしゃるって、ソフトレガシーとして、共同宣言のようなものをつくってもいいんじゃないか、やはり、この万博の間にいのち輝く未来社会のデザインってなんだろうってそれを皆で考えて、悩み、共有をして、未来社会の羅針盤をつくっていく、非常に強い皆さん想いもあるので、それを地元としてですね、しっかりと形に変えて進めていくという広い視点を持ったプロジェクトであるということ、しっかりこの場で認識をして、進めていってもらいたいと思います。

もちろん予算の執行というのは、きちんと公表しながらやっていくわけですけども、その大きな森のところを見失うことなくですね、やってもらいたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。

(彌園万博推進局長)

横山本部長代行、よろしくお願ひいたします。

(市長)

ご説明ありがとうございます。

資料を見てもですね、かなり具体的に事業が進んでいて一層わくわくしてきております。

大阪市としては、4ページ、5ページあたりになると思いますが、渋滞対応やですね、環境整備等に今尽力しております、年内には橋梁の車線拡幅、また、複数の交差点での立体交差、そして、海からのアクセスとなる船着場の完成等を年内は迎えることになると思います。また、年明け1月19日には、いよいよ夢洲駅が開業となりますので、順調にこの周辺整備進んでおりますが、もちろん開催期間中もですね、これは全力でアクセスの改善といいますか、渋滞緩和について取組を進めていきたいと思っております。

先ほどありました通り、万博、そして向こうの大阪に向けて、また引き続き関係者一丸となって取組を進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

パリにも行きまして、各国、本当に期間中どうするかというところに焦点が移ってきておりますので、多くの世界中の方々を、胸を張ってお迎えできるように進めていきたいと思っております。

よろしく願いいたします。ありがとうございました。

(彌園万博推進局長)

ありがとうございました。それでは、これをもちまして、本日の万博推進本部会議を終わりたいというふうに思います。知事・市長をはじめ、リアルで参加いただきました皆様方、そして、オンラインで参加いただきました皆様方、どうもありがとうございました。